

図書館資源共有における中国国家図書館の主導的役割

中国国家図書館
業務处处長
汪 東 波

この半世紀、世界的規模で社会の情報化、情報の社会化の波が押し寄せ、特に最近数年においては、情報経済は社会的財・富の創造の主要な部分となっている。生産技術の高度情報化と科学研究の著しい集約化により、文献情報資源に対する需要は爆発的に増大している。発行形態や媒体の絶えざる更新に加え、価格面での制約もあり、一つの図書館で世界のあらゆる情報を収集・整備することは不可能である。また、情報資源の共同構築・共同利用なくして、少数の図書館の内部努力に頼ることで利用者の情報ニーズを満足させることもすでに不可能となっている。

図書館事業の発展という点からみれば、情報資源の共同構築・共同利用は世界的にも必然的な趨勢であり、また、中国の図書館事業に発展にとっても。現実的、かつ避けては通れない課題である。情報資源の共同構築・共同利用の内容、範囲、方法は 90 年代における情報技術の急速な発展により大きく変化し、その時代的意義はますます重要となっている。

一、情報資源の共同構築・共同利用における国家図書館の最近の主な活動と成果

1. 全国総合目録センターの設立
2. 部門を越えた共同構築・共同利用に関する協力関係の構築
3. 共同構築・共同利用業務および関連基準・規範の検討や討論会を組織
4. 国の重点プロジェクト建設を積極的に支持するとともに、地域における共同利用の実現に尽力
5. 世界的範囲における中国語文献資源の共同構築・共同利用の組織化・計画化と推進
6. 情報資源の共同構築・共同利用を促進するため、具体的業務を組織化・実施
7. 国内の情報資源の共同構築・共同利用を担当する、全国情報資源共同構築・共同利用調整委員会事務局を設立

二、情報資源の共同構築・共同利用における現在の課題

1. 共同構築・共同利用の推進を制約する、伝統的体制下で形成された古い意識
2. 科学的合理性を欠いた資料の分布・配置
3. 縦割（部門）と横割（地域）に分断され、全体を考慮しない独自活動の影響
4. 情報資源の重複構築
5. 均衡を欠くコンピュータネットワーク構築の進展度

三、情報資源の共同構築・共同利用における課題解決のための 5 つの対策

1. 共用意識・全体意識の奨励に努める
2. 「民間が実施、政府が推進」という基本方針のもと、全国図書館文献情報資源共同構築・共同利用業務を統一的に指導・企画する権威ある調整機構を設立する。
3. 文献情報資源の共同構築・共同利用業務の順調な展開を体制として保障するため、本館 - 分館モデルを構築する。
4. 国情に合った情報資源の科学的・合理的な分布・配置モデルを構築する。
5. 中国電子図書館の建設を契機に、ネットワーク化環境下における情報資源共同構築・共同利用業務の発展を図る。

図書館情報資源の共同構築共同利用に関し、現國務院副総理李嵐清の次のように明確に指摘している。すなわち、情報資源は国の貴重な資源であり、第一に国の経済発展、社会の進歩に役立つよう十分に活用すること、第二に情報資源の有効価値を増大するため、無駄な重複を避け、相互の協力を進めること、第三に図書館事業を発展させるため、最新の情報技術を利用した「電子図書館」を構築し、ネットワークを通じてその機能を十全に発揮すること、というものである。これは、全国の図書館・情報機関が 21 世紀に向けて連携・協力しながら、「知識・情報を伝達するという総体的優位性」を生かし、情報資源の共同構築・共同利用を実現するという方向性を明確に示したものである。現代の高度な科学技術の成果を十分に利用して、電子図書館を出来るだけ早く現実のものとし、中国と各国国民の交流と協力を促進することは、中国図書館界が担うべき重要な歴史的任務である。中国国家図書館は、今後中国情報資源の共同構築・共同利用業務を積極的に推進し、世界的なネット情報の重要なかなめとなり、世界中の人々が中華民族のすばらしい文化をともに享受することができるよう努力するつもりである。

2000 年 10 月